



## 課題3-2 「千産千消」のすすめ

千葉県は「食の宝庫」である。三方を海に囲まれ、黒潮の影響を受けた温暖な気候と豊かな土地資源を生かし、米、野菜、果物、魚、牛乳、肉、卵など多くの農水産物・畜産物や醤油などの加工品が生産されている。大消費地に近いという立地条件や、生産者の努力と高い技術力に支えられて、全国有数の農業県、水産県となっている。

ところが、農林水産業が盛んな千葉県にあっても、野菜の平均摂取量は、成人の目標値に対して全ての年代で不足している。また、魚介類の平均摂取量も、ほぼ全国並みである。\*

食(住)と農が近接し、都市と農山漁村が共存する地域でありながら、このような現状にある千葉県の「食」について、すばらしい「ちばの食材」という観点から、生徒にもう一度その豊かな恵みの価値を見つめ直させたい。さらに、「食」を通して、千葉県の未来、日本の未来、そして地球の未来について、思いをめぐらせてもらえればと考える。

そこで、本編の指導にあたっては、豊かな自然と大地を生かし、全国有数の農業県、水産県である千葉県の特徴をとらえさせた後、千葉県や日本の抱える食に関する課題を提起し、生徒に問題意識を持たせたい。その手だてとして、食料自給率に目を向けさせていく。

テキスト59ページの資料2「世界の食料自給率」から日本の食料自給率は、主要先進国の中で最低の水準であり、食料の約6割を外国に頼っている状況にあることが分かる。

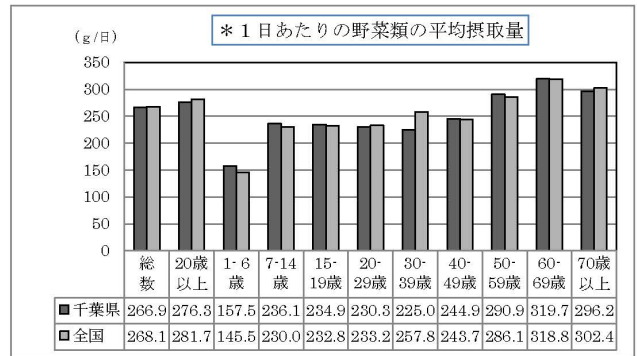
ここでは、新鮮で安心感のある食材を購入できること、流通経費が節約できること、食料自給率が高まり、農水産業の振興に結びつくことなどの「地産地消(千産千消)」のメリットについて様々な角度から考えさせたい。

その一つとして、「地産地消(千産千消)」と地球温暖化の関係について考えてみる。そこで、「フードマイレージ」を取り上げる。

「フードマイレージ」とは、生産地と消費地が遠くなると、輸送に必要なエネルギーがより多く必要になり、地球環境に大きな負荷をかけるという考え方から、主に輸入品について食品の重量×輸送距離を表した概念である。ちなみに、農林水産省の2001(平成13)年の試算によると、日本

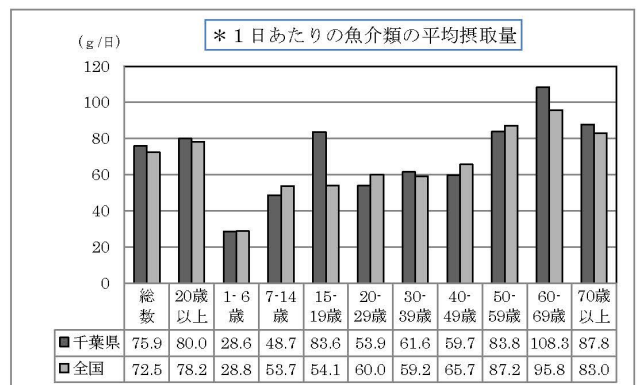
のフードマイレージの総量は約9,000億トン・キロメートルであり、これは、世界中で群を抜いて大きく(フランスは約1,000億トン・キロメートル)、国民一人あたりでも1位となっている。

テキスト56ページの「輸送による環境への負荷を意識した『おかず』(主菜)を考えよう」の中で、生徒自身にフードマイレージ及び輸送手段も考慮したCO<sub>2</sub>排出量を計算させることで、輸送に必要なエネルギーに加え、食材の輸送に伴って排出されるCO<sub>2</sub>による環境負荷を実感させたい。(CO<sub>2</sub>の増加は、地球環境の促進につながる。)



資料：平成22年県民健康・栄養調査及び平成22年国民健康・栄養調査をもとに作成

野菜摂取の目標値 成人1日あたり350g以上



資料：平成22年県民健康・栄養調査及び平成22年国民健康・栄養調査をもとに作成